



「身体障害者とスポーツ」

中 村 裕 監修, 中 川 一 彦 著

本書の著者中川一彦氏は、治療体操士およびPTの資格をもっておられ過去十数年にわたる氏の身体障害者の治療体操を主とした身体障害者スポーツに長い経験の持主である。

今回その経験の中からリハビリテーションの体系としての治療体操やスポーツを指導しておられる段階で施設や社会における身体障害者のリハビリテーションスポーツと能力スポーツとをその指導の段階で分けて考えてもよいのではないかと考えられ、その考え方や方法等について本書に説明してあるように受けとめられる。

身体障害者のリハビリテーションはその体系の中で最近レクリエーションによるものやスポーツによるリハビリテーションも重要視されるようになって来ている。

日本における十数年以上の歴史をもっているパラリンピックやアジアの身障スポーツとしてのフェスピックやグッドマン博士(英国)を中心としたISMG大会等に著者が出席して得た多くの経験と日本の身障者の治療

操の指導を比較検討して治療体育と非治療体育とに分けて意見を述べてあるのは興味深い。

障害別スポーツの指導上の注意や方法、陸上はもちろん車いすを使用しての各種スポーツや水泳や切断者等の身障者の新しいスキー技術まで加味して紹介してある。そして身障スポーツ振興のための問題点と解決法、医学的管理に理解のある指導者の養成や行政上の指導と援助についても詳細に述べてある。

なお本書の監修には身障スポーツにかけてわが国の第一人者である別府「太陽の家」の中村裕博士があたられ万全を期してある。

本書は身体障害者各位はもちろんパラメディカルスタッフの人達でスポーツによる身障者のリハビリテーションを理解しようとする人達に最良の手引き書となるであろう。

(A 4, 240 頁, ¥ 1800, 日本体育社刊)

(国立身体障害センター所長 橋倉一裕)

「リウマチ学」

佐々木 智 也・他編

佐々木智也先生らの編集でリウマチ学の単行本が出版された。欧米ではHollanderのArthritisをはじめとして何冊かの良書が出ているが本邦ではあまりリウマチ学の本は見当たらない。Rheumatologyという専門領域が独立していないところが多いのも問題と思われるが我々関節疾患に多かれ少なかれ関与する者達の待ち望んでいた書である。国際リウマチ学会が京都で開催されてからこのような本を出版する必要性和意欲を感じたと編者も述べているように日本語で書かれた良書はやはり横文字の書物より読み易く实际的である。

関節の基礎知識よりはじまって免疫血清学そして診断と治療と進めているがリウマチの病因論と関係して免疫血清学的研究と理論は興味あるところである。臨床医にとってこのあたりは興味はあるものの理解しにくい点もあるのであるが図を使ってわかりやすい説明が行われている。診断学にかなりの頁がさかれていることは実地医

家にとって有難いところであるけれどもかなりカバーしている疾患が多いこと、日常診療でよく遭遇するものと稀にしかお目にかからないものとの説明の仕方があまり差がなく教科書的になってしまっている。しかし本書の目的がそのようなものであろうから止むを得ないと思う。治療の項は臨床家にとって最も関心のあるところであるが薬物療法から手術、リハビリテーションにまでまとまりよく説明されている。社会的対策としてのリウマチセンター、リウマチクリニック、法制などの文章は今までの書にあまり重点を置かれていなかったところであるが非常に大切であり興味深く読み通した。慢性関節リウマチおよびその関連疾患について30名の専門家執筆による本書はup to dateにおける“リウマチ学”を知る上に適当な良書と考え一読をお勧めしたい。

(B 5, 629 頁, 15,000 円, 1976 年, 医歯薬出版)

(自治医科大学整形外科 大井淑雄)